

「党内に矛盾が無ければ橋下維新の門は叩かないと思いますが？」

平成 27 年 5 月 12 日

● トップハンデさんからの質問

以前、西部氏の番組で、共産党の大門氏が「憂さ晴らしの民主主義」と言っていました。今の大阪がそんな状態になっているのではないのでしょうか？閉塞感漂う地方政治に与野党相乗りの首長選挙を積み重ねた延長線上に発生したのが「橋下維新」。さらに、橋下維新に馳せ参じた議員は元自民党が多数。都構想の住民投票までに、自民党を含む各既成政党は今までの地方政治を点検し、改善するべきではないのでしょうか？自民党は党内にある何らかの矛盾を整理するべきでは？（党内に矛盾が無ければ橋下維新の門は叩かない）住民投票が憂さ晴らしの民主主義にならないことを祈ります。

● 西田昌司の答え

大阪には、東京に比べて立ち遅れてしまっているという閉塞感が漂っており、この閉塞した現状を橋下維新が打破してくれるのでは、と期待されているのですが、このような状況は今に始まったことではなく、政権交代時には民主党が圧倒的な支持を得て大阪のほとんどの小選挙区で勝ったことが思い出されます。しかしその後、大阪は良くはなりませんでしたし、日本はたいへんに国力を低下させる事態に陥りました。さらに遡るとノック現象なるものもありました。元々はお笑いタレントだった横山ノックさんは、参議院議員を何期か勤めた後に大阪府知事にもなりましたが、この時も大阪は良くならなかったのです。

大阪は昭和 40 年代辺りまでは、西日本の経済の中心でしたし、東京に引けを取らない大都市でした。大阪で様々な商社や大銀行が発展しましたが、現在は大企業の本社のほとんどが東京に移ってしまいましたし、大阪に残っ

たものは吉本のお笑いのみといった状況となっています。私もお笑いは大好きですが、大阪の政治までもがお笑いの延長線上で語られて、ノック現象から橋下現象に至るまで、パフォーマンス政治に墮してしまっています。大阪の人は、近畿方言であるいちびり（お調子者、目立ちたがり屋を意味し、クラスの人気者や吉本の芸人になったりするキャラクター）が好きなのですが、しかし、政治家は断じてタレントではありません。

東京都はかつては東京府と呼ばれ、その中核に東京市がありました。しかし、大東亜戦争の真っ只中の昭和 18 年に東京市が 23 の特別区に解体されてその権限が東京府に移管され、東京府は東京都となりました。その結果、23 の特別区の権限は、東京市時代よりも格段に制限されることになりました。特別区にした目的は戦時体制の強化だったのですが、今に至るも 23 の特別区の権限は一般市よりも格段に落ちるものであり、特別区の自治権を他の市のレベルにまで回復させるように主張する区長もいるのです。

東京の 23 の特別区ができた当時、大阪市は日本一の都市となりましたし、戦後も大阪市はいち早く復興しました。大阪府は香川県に次いで 2 番目に面積の狭い都道府県ですが、大阪市の面積はその大阪府の 1 割強であり、京都府の左京区とほぼ同じ面積しかありません。大阪市は、都道府県並みの権限と財源を持つ政令指定都市であり、そこに 24 区があって木目細かな自治を行っていますが、いくら豊かといってもこの狭い面積であれば東京一極集中が進んだ現在では東京に立ち向かえるはずもありません。本来は、堺・吹田・豊中・東大阪といった周辺の市町村を大阪市に合併して、政令市としての^{だい}大大阪市を目指すべきなのです。今回のいわゆる大阪都構想の実態は、大阪市を 5 つの特別区に分割して権限と財源を取り上げるという大阪市解体構想であり、本来向かうべき方向とは真逆の政策であって論外としか言いようがありません。

かつて、^{だい}大大阪市を目指す構想があったのですが、「大阪市の権限と財源を失うのは嫌だ」という大阪市側の反発があり実現しませんでした。また、当初の大阪都構想は、周辺の都市を巻き込んで特別区を 20 区にして、人口・

面積ともに格段に集積をはかろうというものでしたが、肝心の堺市が大阪都構想に反旗を翻したために実現不能となりました。堺市は2006年に政令指定都市となりましたが、特別区になるとせっかく得た権限と財源を失うことになるので、堺市民は大阪都構想にNoを突き付けるという彼らにとっては当然の選択をしたのです。堺市が大阪都構想に参加しなくなったので、大阪都構想は当初とは全く異なるものになりました。周辺の都市を集めて集積を高めることもなく、(単に大阪市を5分割するというだけの)大阪市解体構想の是非を大阪市民に問うという、悲しい住民投票に成り果ててしまいました。

正論を訴える政治家は相手にされずに、受けを狙った政治がはびこって元タレントの橋下さんのような方が注目され、今回の住民投票では大阪市民が大阪市を解体するなどという馬鹿げた判断がされかねず、まさしく「憂さ晴らしの民主主義」とでも形容したくなるような状況が続いています。大阪市民が政治をお笑いのごとく軽く考えて、その結果として大阪の政治が悪くなっているのですから、大阪市民も大いに反省しなければなりません。しかし、今回の住民投票が可決された場合の影響はあまりに大きく、大阪市だけの問題には留まらずに近畿全体、いや日本全体に影響が及びます。しかし、京都市民である私にはそれを止めることはできません。止められるのは大阪市民だけなのです。大阪市民よ、目を覚ませ！皆さんも是非、一人でも多くの大阪市民に訴えていただくようお願いします。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>